

かび上がってきた。そうした酒について、先行研究によって応永年間の京都には300軒以上の酒屋の存在が明らかにされている。また、応仁・文明の乱を契機に京都以外の酒が流入してきたともいわれている。

本研究では、引き続き公家の山科家の酒の入手方法と、将軍家の酒の入手方法について検討を行った。結果、応仁・文明の乱後の山科家は、青侍大沢久守とその被官らによって近江国大津の酒を購入していたことと、山科家の根本荘園である山科東荘で造酒された酒を購入していた。一方で、乱後の山科家は京都の酒を購入している証左がみえないことは注意される。

他方、応仁・文明の乱後の将軍家は、側近の公家衆や女房衆らによる輪番制によって酒が用意されていた。その酒は「奈良酒」や「河内酒」が殆どであった。おそらく公家衆らも山科家と同様に各々が京都以外の酒を入手するルートを持っていたことが予想される。将軍家の酒は、そうした側近衆や女房衆の家が持つ酒入手ルートに支えられていたといえる。

「酒屋・土倉」の社会的立場

史料や研究上でこの時代の「酒屋」は「土倉」と並列して扱われてきた。そうした、酒屋・土倉は、応仁・文明の乱前後の古文書・古記録に頻出する。彼らが史料上に取り上げられ場面として知られているのが、応仁・文明の乱前に土一揆によって襲撃されることである。そして酒屋・土倉らは、土一揆の襲撃に武装して対抗していく。この酒屋・土倉らによる土一揆への対抗について先行研究は、「町衆」としての行動の初期段階とみている。ちなみに「町衆」は、林屋辰三郎氏の研究により、室町幕府に抵抗する勢力だと捉えられてきた。

一方、以前に報告者は、この時代の室町幕府の史料上にみえる酒屋・土倉の実態が幕府の大名（タイム：将軍の近くでその政治を支える重臣）被官の者が多いことを明らかにした。そうした酒屋・土倉がどのような立場を全面に出して土一揆を迎撃していたのかという問題の解決を試みるとともに、酒屋・土倉と幕府、将軍との関係について検討した。

結果、8代将軍足利義政の執政時にはすでに、将軍によって酒屋・土倉らの土一揆迎撃がなされていたことがわかった。つまり、酒屋・土倉らは大名の被官でありつつも、将軍の下で編成されていた将軍の在京武力だったのである。また、酒屋・土倉のメンバーは将軍ごとに変化していたと考えられる。

この結果を踏まえて の研究を考慮するならば、義政期の酒屋の活動が幕府に関連するものを中心とするようになっていったことと、京都住民が京都で酒を入手しなくなることが連動していた可能性が考えられよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 酒匂由紀子	4. 巻 714
2. 論文標題 中世後期の「酒屋・土倉」と室町幕府	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本史研究』	6. 最初と最後の頁 33 - 58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒匂由紀子	4. 巻 42
2. 論文標題 中世後期の京都社会における酒の消費- 『山科家礼記』を中心に -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『花園史学』	6. 最初と最後の頁 33 - 52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒匂由紀子	4. 巻 677
2. 論文標題 中世の「ふるまい」の意味について- 『山科家礼記』・『言国脚記』を中心に -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『立命館文学』	6. 最初と最後の頁 226 - 238
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 酒匂由紀子
2. 発表標題 「中世後期の「酒屋・土倉」と室町幕府」
3. 学会等名 日本史研究会大会共同研究報告
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 酒匂由紀子
2. 発表標題 「徳政と徳政令」
3. 学会等名 奈良歴史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 酒匂由紀子
2. 発表標題 「室町期京都の飲酒文化と応仁の乱」
3. 学会等名 花園大学史学会大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関